



# 訪れて知った上海

外国語学部 中国語学科 3年 村山 朱音

上海に行く前の私は中国に否定的なイメージを持っていた。危ない、汚い、食品や安全に対して不安がある。とにかく否定的なイメージばかりだが、その理由には連日報道されている中国人についてのマナーの問題や、食品や安全への問題を見ていたからだ。

家族には「気をつけなさい」「危なくないの?」と言われ、正直行く前日まで、中国に行きたくない。そう思っていた。

出発当日、同じゼミのメンバーと空港へ集合し、不安を抱きながらいざ上海へ。3時間の空の旅を終え空港にたどり着き、目に入ったのは綺麗な空港だった。あれ、綺麗だぞ?そして広い!どこまで私の中国のイメージは悪かったのだろう。

ホテルのある南京路に到着すると、そこにはネオンの文字が光っていた。歩いていると、道もゴミはあまり落ちていないし、整備されている。ホテルの周りの店は日本の屋台のような感じで目の前で作るような店がたくさんあったが、どこも安価でいい匂いが漂っていた。私は韓国が好きでよく訪れるが、韓国のソウルに近いものを感じた。滞在1日目から思っていたものが覆されたかのように以外と過ごしやすい雰囲気にとだひたすら興奮していた。



二日目以降からは少し慣れてきたのか、日本にはない色々なものに目が留まる。駅中の一角には中国で利用されるSNSアプリのWechatの専用通貨Wechat Payを使用し利用する事が出来る二人用のボックス型のカラオケや、町の至る所に停まっているレンタル式の自転車。またWechatを利用してタクシーを呼んだり、なんとたった3元一杯の豆乳や、路上で荷車で売っている焼き芋なども、Wechat payでかえてしまう。支払いから、娯楽まで使い方は様々あるが、WechatのIDがないと利用できないものの中にはある、また銀行の口座がな

いと、利用が出来ないなど外国人には問題が少々あるが、中国の人々には Wechat pay が浸透していた。

また面白い光景も沢山あった。道の広いスペースでは高齢者が太極拳を、小さな遊園地には日本の有名なキャラクターのような像が堂々と立っていた。人民公園へ足を向けると何やらズバリと並んだ傘が。傘には名前から年齢や身長や体重、学歴などが書かれた紙が貼ってある。実は傘に情報を張り公開し、結婚相手や交際相手を探しているのだ。最新技術が普及していたり、日本ではみられない光景が見られたり、驚きの連続で飽きない。



そして私には何より食事だった。あれだけ食品の安全を心配していた私だが、滞在最終日には一人で店へ買いに行くようになっていた。今では容器ではなく、ただのビニールに無造作に入れた焼餅、おじさんに頼むと手づかみの材料でその場で3分で出来てしまうチャーハン、一杯3元の豆乳が恋しい。日本ではサービスや対応や見た目に丁寧さを求められるが、中国の店員の適当さと雑さを経験した私は、今では日本が少し暑苦しく感じる。

初めて上海へ訪れてみて思ったことは、「百聞は一見にしかず」だ。なぜ今まで早くていかなかったのだろう。上海の文化に実際に触れ、感じ、見て

みたら、イメージだけでなく自分自身にも大きな変化があった。もちろん今回は上海であったが、ぜひ違う所も経験してみたい。むしろ、もっとディープな場所へ行ってみようと思う。後日、他のゼミの友人が私に「中国どう？汚い？」というメッセージを送ってきたが、迷わず、「行ってみたら分かるよ。」と返した。ぜひ、「百聞は一見にしかず」を上海で体験して見てほしい。